

CASBEE-建築(新築)2016年版  
GATAG LIVINGCOURT 計画

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.02)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体		
		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.1</b>		
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>2.9</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>2.9</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.9</b>		
1.1 室内騒音レベル	-	<b>3.0</b>	0.48	<b>3.0</b>	0.50			
1.2 遮音	-	<b>3.0</b>	0.48	<b>3.0</b>	0.50			
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	-	3.0	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音	-	<b>1.0</b>	0.03	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>		
2.1 室温制御	-	<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	1.00			
1 室温	-	3.0	0.60	-	-			
2 外皮性能	-	3.0	0.34	3.0	1.00			
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.05	-	-			
2.2 湿度制御	-	<b>1.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>		
3.1 昼光利用	-	<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光率	-	3.0	0.50	3.0	0.50			
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備	-	3.0	0.50	3.0	0.20			
3.2 グレア対策	-	<b>2.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御	-	2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	-	<b>3.0</b>	0.13	<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御	-	<b>3.0</b>	0.29	<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>		
4.1 発生源対策	-	<b>3.0</b>	0.58	<b>3.0</b>	0.63			
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	3.0	1.00			
4.2 換気	-	<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.38			
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	-	3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理	-	<b>4.0</b>	0.03	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視	-	3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	敷地内全面禁煙としている。	5.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.5</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.4</b>		
1.1 機能性・使いやすさ	-	<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60			
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	各住戸に100Mbit以上のブロードバンド環境(光ファイバーケーブル)が整備。	3.0	-	4.0	1.00			
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性	-	<b>3.0</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.40			
1 広さ感・景観	住戸の天高2.5mで計画。	3.0	0.05	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース	3階コート4をレストスペースとして利用。	4.0	0.05	-	-			
3 内装計画	-	3.0	0.89	3.0	0.50			
1.3 維持管理	-	<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	<b>4.2</b>	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	地震動の入力値に1.25倍の割増を考慮。	4.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能	基礎免震を採用。	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数	-	<b>3.2</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	水セメント比50%以下など、コンクリートの品質を指定。	5.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性	-	<b>3.6</b>	0.20	-	-			
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備	節水型器具の採用。散水に井水利用。	4.2	0.20	-	-			
3 電気設備	電源設備の地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備	精密機械の地下空間への設置を避けている。	4.0	0.20	-	-			

<b>3 対応性・更新性</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>		<b>4.2</b>	0.05	<b>4.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり	物販店舗は最小4.45m、住戸は最小3.2mの階高を確保。	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	—	<b>3.0</b>	0.05	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	0.90		-	
1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		—	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	—	<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	—	<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	—	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	<b>3.3</b>
<b>LR1 エネルギー</b>		—	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	—	<b>2.8</b>	0.20	-	-	<b>2.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	—	<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEIm] = 0.93	<b>4.3</b>	0.50	-	-	<b>4.3</b>
<b>4 効率的運用</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価		<b>3.0</b>	0.16	-	-	
4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		<b>3.0</b>	0.84	-	-	
4.1 モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>		—	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>		<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水コマ及び省水型機器の設置。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	—	<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	—	<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	—	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>		—	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	スコア換算3.5	<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
2.1 大気汚染防止	—	<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	—	<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	—	<b>3.2</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車スペースの確保、荷捌きスペースの確保。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音	—	3.0	0.33	-	-	
2 振動	—	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0			○	○	-		○	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	-	-	○	-	○	○	○	-	-	○		
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		-	-	-	○	○	○	○		-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	-	-	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	○	-	-						
2.4.3 電気設備	3.0	2.0	○	-	○	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	2.0	2.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		1.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		2.0	-	2.0	3.0	1.0	3.0	-	-					
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無				-											
2.1 材料使用量の削減	1.0		1.0	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	1.0	1.0	-	2.0	1.0	-	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		1.0	1.0											
<b>主な指標</b>															
<b>Q1 室内環境</b>															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC 0.5 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m2K) 窓システム 4.0 屋根 2.0 外壁 2.0 床 2.0															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -															
3.1.1 昼光率 昼光率 1.5%															
4.2.2 自然換気性能 自然換気有効開口面積率 3.3%															
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.1.1 広さ・収納性 執務スペース 6.0㎡/人 病床 8.0㎡/床 シングル 15.0㎡ ツイン 22.0㎡															
1.1.2 高度情報通信設備対応 コンセント容量 30.0 VA/㎡															
1.2.1 広さ感・景観 天井高 2.5 m															
1.2.2 リフレッシュスペース % レストスペース %															
2.2.1 躯体材料の耐用年数 想定耐用年数 30 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔 想定必要間隔 20 年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 想定必要間隔 0 年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔 想定必要間隔 0 年															
3.1.1 階高のゆとり 階高 3.4 m															
3.1.2 空間の形状・自由さ 壁長さ比率 30.0%															
3.2 荷重のゆとり 床荷重 4000 N/m2															
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出 外構緑化指数 34% 建物緑化指数 31%															
3.2 敷地内温熱環境の向上 空地率 20% 水平投影面積率 44% 地表面対策面積率 57% 舗装面積率 26%															
<b>LR1 エネルギー</b>															
1 建物外皮の熱負荷抑制 BPI/BPI <sub>m</sub> 1.00 断熱等性能等級 等級3 相当															
2 自然エネルギー利用 自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす住戸数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%															
3 設備システムの高効率化 BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 1.00 住宅 - 太陽光 0kW 太陽熱等 0kW 蓄電池 0kW															
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無 雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材 使用比率 5.0%															
3.2.1 消火剤 オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等) オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 1430															
3.2.3 冷媒 オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 8															
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善 見付面積比 44% 隣棟間隔指標Rw 0.40															
地表面対策面積率 114.0% 屋根面対策面積率 16.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積Sb 40,000㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 200 m 基準高さHb 450 m															
緑地 430㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 300㎡ 高反射対策面 200㎡ 再帰性反射対策面 300㎡															